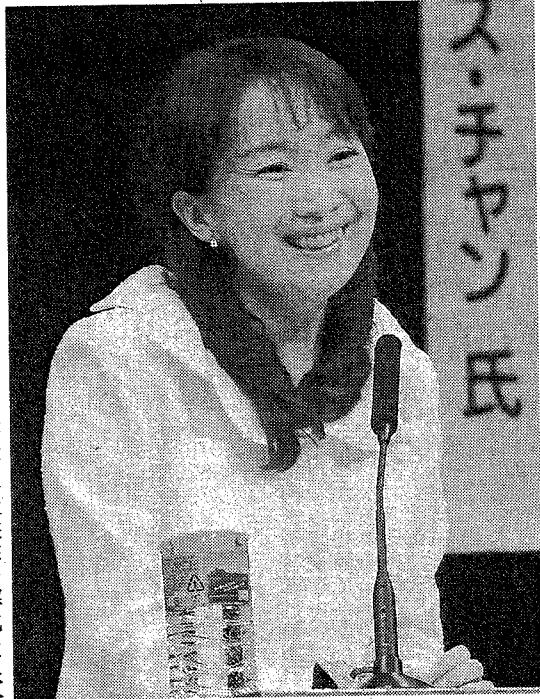


平和と安定欠かせない

アグネスさん 講演 国内外の様子語る

苦小牧・せらび



支え合いの大切さについて語ったアグネス・チャンさん

露し、会場を沸かせた。一方で、イラクやアフガニスタンなどで子供が次々と死んでいく、多産多死の厳しい現実についても語

った。この悪循環を終わりにするには「平和と安定した生活が欠かせない」と指摘。「平和を望むなら、どれくらい人に優しくできるか、どれだけ許せるかが大切」と説き、「自分が恵まれているのにそれに気付かないのは不幸です。人間は素晴らしいことに、いつでも変われる」と呼び掛けた。

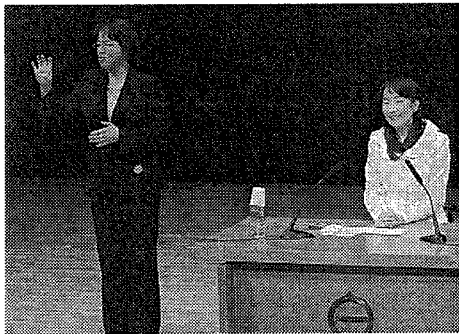
歌手で教育学博士、日本ユニセフ協会大使と幅広く活躍するアグネス・チャンさんを招いた講演会が十日、苫小牧市文化会館で開かれた。当初予定の二月から大雪の影響で延期になった講演会には、市民約三百人が訪れ、「ともに支え合う街づくり」をテーマにしたアグネスさんの優しい語りにも耳を傾けた。

障害者理解の促進を旨とし、社会福祉法人せら

びの主催で、道委託の施設拠点機能支援事業の一環として開催した。アグネスさんは、他人と「比べる」「子育ての悪影響を解説して教育学博士の一面を見せたり、海外留学を決意したいきさつなどについても語り、時にユーモアや歌声も披

差別ない、支え合う社会に

「アグネス・チャン講演会から」(上)



手話通訳も付いて、講演したアグネスさん

今月十日、歌手のアグネス・チャンさんを招いた講演会(社会福祉法人せらび主催)が若小牧市文化会館で開かれた。「みんな地域に生きるひととともに支え合う街つくりに向けて」をテーマに、アグネスさんは海外ボランティアの体験や子育て経験など、学んだ支え合いの精神の大切さを伝えた。講演の内容を三回にわたって紹介する。

わたしは香港生まれ、香港育ち、十七歳から日本に来て、三十七年になります。きょうは支え合う、差別しなくてはいけないという心

を語り合おうです。いろいろな国を歩いてみて、安定した環境で子育てができない人の方が、圧倒的に多いことを知りました。ユニセフの統計では、まだ毎年、九百二十万人以上の子供たちが五歳になる前に死んでしまふんです。どこで生まれても死ぬのかという、それは戦時中の国、貧困な国です。

戦争と貧困なくそう

悪循環を止めるには、二つ最低条件が必要と思っています。その一つが、平和です。戦時中たたくさんの人が死にます。戦争が終わると、大人の死亡率がぐっと下がりますが、子供の死亡率は何年たってもなかなか下がらないんです。なにかが原因で、要するに、一つの地域がもう一度、子供をばくむ力を持つまで、時間がかかるんです。その間に、また争いが起きて、犠牲者が増えていく。もう一つは安定した生活です。せいたくは言いながら、生きていくには、大人が、食べ物を持って帰ってくるぐらいの状況が必要なんです。残念ながら、二つの最低条件が満たされないと、戦争がまた起きます。これを基準にして自分なりたい社会を築いてほしいです。

なにかが原因で、要するに、一つの地域がもう一度、子供をばくむ力を持つまで、時間がかかるんです。その間に、また争いが起きて、犠牲者が増えていく。もう一つは安定した生活です。せいたくは言いながら、生きていくには、大人が、食べ物を持って帰ってくるぐらいの状況が必要なんです。残念ながら、二つの最低条件が満たされないと、戦争がまた起きます。これを基準にして自分なりたい社会を築いてほしいです。

にしないといけないと思の四番目として育てられたいです。自分が少しも余裕がある時には、余りかかわりなく、二番目の姉の良さを認めてもらう。自分の良さを認めてもらう。それが大切なんです。

間は比べてはいけません。心理学の人は「人間は比べてはいけません。比べないで、丸ごと受け止める。受け止めて初めて、その人の美しさが見えるんです。普通というラインは幻です。

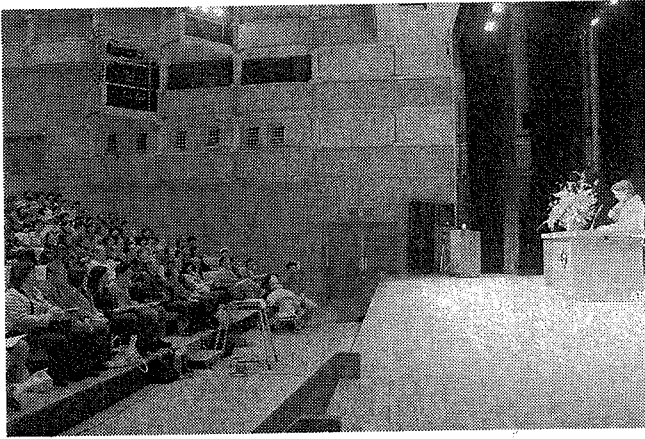
プロフィール
香港生まれ。1972年「ひなげしの花」で歌手として日本デビューを果たす。その後ボランティア活動や文化活動にも積極的に参加。現在、歌手活動にとどまらず、エッセイスト、大学教授、日本ユニセフ協会大使など、幅広く活躍している。

魅力は、人それぞれです。障害がある人は、も

差別ない、支え合う社会に

「アグネス・チャン講演会から」 ㊦

中学に入り、遊みたいの見えない子、親のいな半分で、ボランティア活い子、難民の子、心に病動に参加しました。活動を持つ子供。がんの末期を通し、いろんな人と会患者の看病もしました。うことができました。目 ボランティアから少な



集まった約300人に、平和への思いを語るアグネスさん

くとも一つ覚えたのは、なになって怖くなって死んた時は、たいがい自分て、尊敬し合う。楽しいものがある。いろいろな人が自分の地域でいことでもなかった。のことはっかり考えている時なんですよ。どうしても同じにならぬ部分があったと

です。わたしが知らないにそれに気が付かないのは、香港にいる時、友情友して、時と場合によっ好平和の一番の力ギは、ては大目に見ないと駄目みんな同じになることだなのかなと思いました。と思っていました。日もし世界中の人がこの本に来てこの考えは少し考え方になれたら、それこそ、もう少し

違いを認め合う必要

でも、冷戦し平和が来ているはずで

わいそうと思っていた。幸せだったら、どつして 浅いと思いました。同じ所で生まれ育って 国と地域で戦時中です。 80%が内戦です。主な原因は、宗教の違い、歴史の認識の違い、民族の違いです。

なかつたら、不平不満ばかり言 自分で、自分 校にも行けた。おなかか 痛くなったら、わたしは 薬が飲めた。土砂降りの 雨の中、外で泣きながら 夜が明けるのを待つこと 一人て病氣

も無かった。一人て病氣 自分て病氣 自分て病氣 自分て病氣 自分て病氣 自分て病氣 自分て病氣 自分て病氣 自分て病氣 自分て病氣 自分て病氣

差別ない、支え合う社会に

「アグネス・チャン講演会から」(下)

初めてアフリカに行っ
たのはエチオピアで、一
九八五年でした。その年、
干ばつと内戦で百万単位
の人が飢えて死んでいま
した。

(現地で)何とか子供
たちとコミュニケーション
を取ろうと思い、話せ
ないので、現地の人から
言葉をおぼえて作った替
え歌を歌いました。最初
は「変なおばさんだな」
という顔をされたんです
が、歌ううちに一人、二
人、三人と子供が立ち上
がってくれた。立つと、
体がやせているのがよく
分かりました。太ももが
わたしの三、四本の指ぐ
らしかなかった。そんな
子たちが踊り出し、歓迎
しようとしてくれたの。
歌に合の手を入れて。
もうその姿がかわいく
て、とてもいとおしかつ
た。もうここで死んだら
い」と、大使に任命され
ました。あれから日々勉
めを続けています。

世界の子供に夢ある生活を

なりました。あの一回で、
一生分の勇気を手供たち
はくれたんです。助けて
あげたいと思うと自分の
知らない力までとんとん
わいてくるんです。
一九九八年、日本ユニ
セフ協会から「せひ一緒
に世界の一番弱い子たち
の声になっていきたきた
い」と、大使に任命され
ました。あれから日々勉
めを続けています。

渡す限りがお墓。
病院に行ったら、先生
たちが必死でした。水も
無く、電気も無い、薬も
無い。子供たちが運ばれ
てきても、手術ができな
い。どうしてもしなければ
ならない時は、みんな
で押さえ、麻酔なしでそ
のまま、手術をするんで
す。わめき声、血にお
いがすごかったです。

ちを抱え、ほおずりして、
強です。タイでは、人身
売買。スーダンでは児童
兵士の問題。インド・ム
ンバイのスラムの子供た
ち、本当にかわいそうだ
う。

がん病棟に行ったら、
あふれんばかりの泣き
放しの子、がんの末期患
者です。先生は劣化ウラ
ン弾のせいと言ひ、「あ
なたは日本から来たんで
しょう。被爆はどいつの
ことなの。助けてよ、
わたしたちに頼みに来る
んです。さすがに、言葉
を失いました。

二〇〇三年、
ブッシュ前大
統領が終結宣
言を出した
後、六月にわ
たしたちは行
きました。ク
ウェートから
陸路で入りま
した。まちな
真ん中は子供
の墓地で、見

わたしの最大の夢は、
こういう子に一日でも長
く生きてほしい。せ
いたくを言えば、学校に
行って、満足に食べられ
て、夢見る生活ができた
らいいなと思います。自
分も地域の一部ですか
ら、地域がよくなれば、



世界にあふれる、悲しい現実を語るアグネス・チャンさん

最後に、天国と地獄の
例え話を。丸いテンプル
の真ん中に豪華なごちそ
うがたぐさん並び、みん
なが食べようとしています。
すが、はしがありませんが、
これがとても長い。
地獄の場合、長いはし
を使ってごちそを取っ
たら、自分の口に運ぼう
とします。おはしが長過
ぎて、自分の口には届か
ない。見えていて食べら
れない。欲求不満になり、
しまいにあなたはあなた
のせい、と大騒ぎです。
天国の場合、長いはし
でおいしそうな物を取っ
たら、相手の口元まで運
びます。「はい、食べて
ください」と。自分も同
じくやってみよう。お互
いにおいしい物が食べら
れ、和気あいあい、幸せ
がいっぱいだそうです。
次の世代が大人になる
時には、少しでも天国に
近いような状況になれ
ば、幸せだなと思います。
みんなと一緒に頑張った
らいいなと思います。